

伊賀上野城の主な催し

■ 4月6日 〈お城の日〉 特別企画

■ 9月～10月(お城広場で開催)
薪能、太鼓フェスティバル、
少年剣道大会、弓道大会

■ 10月～11月 菊花展

【その他】

特別展、企画展、琴演奏などの多彩な企画



天守閣を背に薪能

登閣料〈入館料・税込〉

【個人】

大人500円 小人200円

【団体30名以上】

大人400円 小人150円

開館時間

9:00～17:00 〈入館は16:45まで〉

休館日

12月29日～31日



マスコットキャラクター
た伊賀ーくん

伊賀上野城登閣記念スタンプ

〒518-0873 三重県伊賀市上野丸之内106
公益財団法人 伊賀文化産業協会
Tel. 0595-21-3148 Fax. 0595-21-3149



伊賀上野城

IGA UENO CASTLE

小さな盆地の伊賀の国は、“忍者の里”ともいわれ、その中心は上野の城下町です。町の北部の高台には白亜三層の天守閣が優美、端麗な姿を誇り、「白鳳城」ともよばれ親しまれています。

◇城 跡 国の史跡名勝記念物〈1967年12月27日指定〉

◇天守閣 伊賀市有形文化財〈1985年3月18日指定〉

三つの天守閣 ～伊賀上野城の沿革～

- 一. 天正13年(1585)、伊賀の国を領した筒井定次が三層の天守を築き、北に表門を構えた。豊臣秀吉の没後、関ヶ原の戦いに勝った徳川家康は慶長13年(1608)、定次を改易した。
- 二. 同年、伊予国今治城主であった藤堂高虎が伊賀・伊勢安濃津の城主となった。高虎は筒井故城を西に拡張し、豊臣方に備えて高さ約30メートルの石垣を築いた。しかし慶長17年(1612)、竣工直前の五層の大天守は暴風のため倒壊。その後、大坂冬の陣、夏の陣での豊臣方の滅亡と、幕府の城普請禁止策とにより、天守が再建されなかったが伊賀一国の城として城代家老による執政体制が幕末まで続いた。
- 三. 現在の天守は、昭和10年(1935)に地元出身の代議士、川崎克氏が私財を投じて純木造の復興天守を再建したもので、名称を「伊賀文化産業城」とした。



大天守入口の扁額「鳳凰雙飛」川崎 克 書

復興天守閣データ

大天守 三層三重 高さ23m(基台を含め33.3m)
建坪276㎡ 延べ床面積558.73㎡

小天守 二層 高さ9.54m
建坪83.6㎡ 延べ床面積71.66㎡

地鎮祭 昭和7年(1932)10月14日

竣工式 昭和10年10月18日
昭和期最後の木造天守閣

天守閣復興者 (天守閣二階に資料展示)

川崎 克 氏 (1880~1949)

現在の伊賀市上野車坂町生まれ。明治法律学校に学ぶ。衆議院議員当選11回、従四位勲二等。

「攻防作戦の城は亡ぶる時あるも、産業の城は人類生活のあらん限り不滅である」を天守閣復興の根本信念とした。昭和17年(1942)には芭蕉翁を顕彰する「俳聖殿」も建立した。



高石垣



藤堂高虎の築いた高さ約30mの石垣は日本有数の高さで、西側からの眺望が美しい。

天守閣内の展示

一階 甲冑・武具、伊賀焼 (筒井伊賀~現代作家)



唐冠形兜 (三重県指定文化財・伊賀市所蔵)

二階 藤堂家関係史料・武家調度品・芭蕉旅笠など



藤堂高虎公座像(部分)
(前田呉耕画)



書見台

三階 天井の大色紙と城下町展望



格天井の大色紙

天守閣復興を祝う著名人の書画。横山大観の「満月」などの46枚。